８　次の文章は池内恵「すばらしい『まだら状』の新世界」（『アステイオン』92号所収）の一節である（設問の都合で一部省略し、表記を改めたところがある）。読んで設問に答えよ。　　　　　　　　〈北海道大〉二〇二一年度出題

　冷戦が終結した時、三〇年後の世界がこのようなものになっていると、誰が予想しただろうか。シス・フクヤマは『歴史の終わり』で、自由主義と民主主義が世界の隅々まで行き渡っていく、均質化した世界像を描いた。それに対してエル・ハンチントンは『文明の衝突』で、宗教や民族を中心にした歴史的な文明圏による結束の根強さと、それによる世界の分裂と対立を構想した。

　Ａいずれの説が正しかったのだろうか？　確かに、世界の均質化は進み、世界の隅々まで到達したインターネットとスマートフォンの上で、自由主義や民主主義の理念も、気軽に手にして呼びかけることができる商品であるかのように普及した。しかしそれらが現実の制度として定着し、実現しているかというと、心もとない。

　それではハンチントンの言う「文明の衝突」が生じたのか。確かに、冷戦終結直後のバルカン半島の民族紛争や、二〇〇一年のアル＝カーイダによる九・一一事件をきっかけとした、米国とイスラーム過激派勢力とのグローバルなテロと対テロ戦争の応酬、二〇一四年のイラクとシリアでの「イスラーム国」の台頭、といった事象を並べれば、世界は宗教や民族による分断と対立によって彩られているように感じられる。しかし実際の世界は、文明によって明確に分かたれていない。文明間を分け隔てる「鉄のカーテン」は、地図上のどこにもない。

　むしろ「Ｂ文明の内なる衝突」の方が顕在化し、長期化している。イスラーム過激派は世界のイスラーム教徒とその国々を、国内政治においても、国際政治においてもまとめる求心力や統率力を持っていない。実際に生じているのは、イスラーム教徒の間の宗派対立であり、イスラーム諸国の中の内戦であり、イスラーム諸国の間の不和と非協力である。

　「イスラーム国」やアル＝カーイダの脅威を受けるのは、なによりもまず中東やアフリカのイスラーム諸国であり、人々は宗教規範を掲げた独善を武力で押し付けるイスラーム過激派の抑圧から逃れるには、劣らず抑圧的な軍部・軍閥の元にを求めるしかない、という苦しい選択を迫られている。

　これに向き合って、自由主義と民主主義の牙城となるはずの米国や西欧もまた、求心力を失い、内部に深い亀裂と分裂を抱えている。「欧米世界」の一体性と、その指導力、そしてそれが世界を魅了していた輝きは、多分にりを見せ始めている。「欧米世界」は、外からは中国やロシアによる地政学的な挑戦を前にじりじりと後退を余儀なくされ、内からは、英国のＥＵ離脱、米国のトランプ政権にまつわる激しい分断に顕著な、揺らぎと分裂の様相を示している。冷戦後に「欧米世界」に歓喜して加わった東欧諸国をはじめとしたＥＵの周縁諸国からは、あからさまに自由主義や民主主義をかなぐり捨て、ポピュリズムと権威主義の誘惑に身を投げるかのような動きが現れている。

　歴史は自由主義と民主主義の勝利で終わったわけでもなく、まとまりをもった巨大文明圏が複数立ち上がって世界を分かつこともなさそうである。

　現在の世界秩序を何と呼べばいいのだろうか？　私は試みにそれを「まだら状の秩序」と呼んでみている。「まだら状」とは何か？　それははたして「秩序」と言いうるものなのか？

　現在の世界地図は、政治体制によっても、宗教や民族によっても、明確に分かたれていない。自由主義とイスラーム主義といったイデオロギーによる断裂の線は、地理的な境界を持たず、中東でもアフリカでも、欧米の国々でも、社会の内側に走っている。

　個々人の内側も、一方で、手にしたスマートフォンを今更手放せないのと同様に、慣れ親しんだ自由を享受せずにはいられないにもかかわらず、他方で、強い指導者に難問を委ね、即断即決の強権発動で解決してもらおうという心性に、知らずのうちに侵食されている。ここに「まだら」な状態が生じてくる。

　「イスラーム国」は、世界が様々な脅威によって不意に「まだら」に侵食されて変容する秩序変化のあり方を、先駆的に示したものだったと言えるのではないか。二〇一四年から二〇一八年にかけて急速に支配領域を拡大し、そして急速に消え去ったＣ「イスラーム国」という現象は、旧来の世界史記述にあるような帝国や国家の盛衰とは、メカニズムを異にする。組織的な中央政府が秩序立った軍を整備して領域を拡大し、周辺諸国を「」して国境線を外に広げていくのではなく、各地にポツポツと現れた「イスラーム国」への共鳴者たちが、それぞれの街区や町や地域を支配して、「まだら状」に支配領域を広げていく。従来の国家が国境と領土の連続性と一体性を原則とし、面的に広がっていくことを競ったのに対して、「イスラーム国」は地理的な連続性と一体性に囚われない。まるで散らばった水滴ががって水たまりとなり、池となり、やがては大海となるかのように、分散した主体が、各地で同じ方向の同じ動きを繰り返すうちに、外的環境が整うことによって結びつき、奔流のような勢いを持ち始める。

　これを既存の国家や国際システムが押さえ込むには、多大な労力と犠牲を必要とする。「イスラーム国」のメカニズムは、イスラーム教の共通の規範体系という前近代に確立された「インフラ」を、グローバル化による移動の自由の拡大、情報通信の手段の普及という現代のインフラと結合させ、双方の恩恵を存分に受け、活用したものだった。確固とした中央組織を持たず、インターネットを通じて不特定多数に対して、イスラーム教の特定の規範の履行義務を繰り返し呼びかけ、自発的な呼応を誘う。これによって各地に「まだら状」に現れた同調者・小集団が個別に行う運動を、インターネット上で集約し、一つのものとして発信し、認知させる。それがまた新たな呼応者を生んでいく。

　各個人がイスラーム主義の理念にかれ呼応する、内なる動因に依拠した運動を抑圧するには、多大な自由の抑圧を伴いかねない。イスラーム過激派を抑圧するための行動が、自由主義と民主主義の抑圧をもたらしてしまうというジレンマである。「イスラーム国」が活性化した二〇一四年から二〇一八年にかけて、それを根絶するために、自由主義と民主主義の側が自らの理念を返上し、結果的に「イスラーム国」の理念が勝利するというトピアの実現のすれすれまで、世界は知らずのうちに追い込まれたとも言えよう。「イスラーム国」の組織の消滅は、「イスラーム国」の理念を撲滅したわけでもなく、さらに、「イスラーム国」が「まだら状」に発生し拡大することを可能にしたグローバル化と情報通信技術の普及を止めたわけでもない。Ｄ同様の事象は、条件が変わらなければ、今後常に起こりうる。それは中東やイスラーム世界から起こるとは限らない。グローバルな条件が可能にする、グローバルな危機の震源は、「まだら」な世界地図のひとつひとつの斑点のように、世界各地に、究極的にはわれわれ一人ひとりの内側に、点在している。

注１　フランシス・フクヤマ―米国の政治学者（一九五二～）。『歴史の終わり』は、原著一九九二年刊。

　２　サミュエル・ハンチントン―米国の政治学者（一九二七～二〇〇八）。『文明の衝突』は、原著一九九六年刊。

　３　ディストピア―反理想郷。暗黒世界。

問１　傍線部Ａ「いずれの説が正しかったのだろうか」という問いに対して筆者はどのように答えているか。本文中から七〇字以内で抜き出して答えよ。

問２　傍線部Ｂ「文明の内なる衝突」の具体例を二五字以内で挙げよ。

問３　傍線部Ｃ「『イスラーム国』という現象は、旧来の世界史記述にあるような帝国や国家の盛衰とは、メカニズムを異にする」とあるが、いかなる点において異なるのか。四〇字以内で説明せよ。

問４　傍線部Ｄ「同様の事象は、条件が変わらなければ、今後常に起こりうる」とあるが、この「条件」とは何か。三〇字以内で述べよ。

◎問５　波線部「まだら状の秩序」とはどのようなものか。本文全体を踏まえて八〇字以内で説明せよ。

【解答と採点基準】

問１　歴史は自由主義と民主主義の勝利で終わったわけでもなく、まとまりをもった巨大文明圏が複数立ち上がって世界を分かつこともなさそうである。

（66字）

問２　Ａイスラーム諸国やＢ欧米諸国内外のＣ不和と非協力と分断。（25字）

Ａ＝３〔「イスラーム教徒の間」「イスラーム世界」などでも可。〕

Ｂ＝３〔「米国」「ＥＵ」などでも可。〕

Ｃ＝４〔同内容可。〕

問３　Ａ中央組織や地理的に連続する支配領域がなく、Ｂ各地の小集団が同調して結びつく点。（38字）

Ａ＝４〔「中央政府がない」こと＝２、「地理的な連続性がない」こと＝２。〕

Ｂ＝６〔「各地の小集団」は「分散した主体」でも可。「同調する」「結びつく」は同内容可で、なければそれぞれ減点２。〕

問４　Ａグローバル化による移動の自由の拡大と、Ｂ情報通信技術の普及。（29字）

Ａ＝５〔「グローバル化」のみの場合、減点２。「移動の自由の拡大」は、「交通手段の普及」などの表現でも可。〕

Ｂ＝５〔「インターネットの普及」などの表現でも可。〕

※「共通の規範体系という前近代のインフラと、現代のインフラ」などの形でＡ、Ｂの内容を「現代のインフラ」とまとめ、それ以上の説明がない場合は全体４点。

問５　Ａグローバル化と情報通信技術の普及が Ｂ地理的な制約を超えて、Ｃある価値観への自発的な同調者の集団を生み、Ｄ普遍的理念や歴史的な文明圏を Ｅ内側から分断している状態。（76字）

Ａ＝２〔「グローバル化」「情報通信技術の普及」のどちらかがない場合は減点１。〕

Ｂ＝２〔同内容可。〕

Ｃ＝２〔「自発的な」「同調者」のどちらかの内容がない場合、減点１。〕

Ｄ＝２〔「普遍的理念」は「自由主義や民主主義」でも可。「普遍的理念」と「歴史的な文明圏」のどちらかがない場合は減点１。〕

Ｅ＝２〔同内容可。〕